



L1 Pro8 & L1 Pro16
ポータブルラインアレイシステム

取扱説明書

安全およびセキュリティ上の留意項目および使用方法をよく読み、それに従ってください。

安全上の重要な注意事項



Bose Corporation hereby declares that this product is in compliance with the essential requirements and other relevant provisions of Directive 2014/53/EU and all other applicable EU directive requirements. The complete declaration of conformity can be found at: www.Bose.com/compliance.



この製品は、すべての適用される電磁両立規則2016およびその他すべての適用される英国の規制に準拠しています。完全な適合宣言書については、次のサイトを参照してください。

www.Bose.com/compliance.

Bose Corporationはここに、この製品が無線機器規則2017の必須要件およびその他すべての適用される英国の規制に準拠していることを宣言します。完全な適合宣言書については、次のサイトを参照してください。 www.Bose.com/compliance.

- このガイドをよくお読みください。
- 必要な時にご覧になれるよう、本書を保管してください。
- すべての注意事項に留意してください。
- すべての指示に従ってください。
- この製品を水の近くで使用しないでください。
- 清掃の際は乾いた布を使用してください。
- 通気孔は塞がないでください。製造元の指示に従って設置してください。
- ラジエータ、暖房送風口、ストーブ、その他の熱を発生する装置（アンブを含む）の近くには設置しないでください。
- 極性プラグを使用する場合、極性プラグや接地極付きプラグの安全機能を損なうような使い方はしないでください。極性プラグには2つの端子があり、片方の端子がもう一方の端子よりも幅が広がっています。また、接地極付きプラグには2つの端子に加え、接地用のアース棒が付いています。極性プラグの広い方の端子および接地極付きプラグのアース棒は、お客様の安全を守る機能を果たします。製品に付属のプラグがお使いのコンセントに合わない場合は、電気工事業者などにご相談ください。
- 電源コードが踏まれたり挟まれたりしないように保護してください。特に電源プラグやテーブルタップ、機器と電源コードの接続部などにはご注意ください。
- 必ず製造元より指定された付属品、あるいはアクセサリのみをご使用ください。
-  メーカーが指定する、または製品と一緒に購入されたカート、スタンド、三脚、ブラケット、または台のみをご使用ください。カートを使用する場合、製品の載ったカートを移動する際には転倒による負傷が起きないように十分注意してください。
- 雷雨時や長期間使用しない場合は、電源プラグを抜いてください。
- 修理が必要な際には、カスタマーサービスにお問い合わせください。製品に何らかの損傷が生じた場合、例えば電源コードやプラグの損傷、液体の侵入や内部への異物の落下、雨や水蒸気との接触、動作の異常、製品本体の落下などの際には、直ちに電源プラグを抜き、修理をご依頼ください。

警告／注意



この表示は、製品内部に電圧の高い危険な部分があり、感電の原因となる可能性があることをお客様に注意喚起するものです。



この記号は、このガイドに製品の取り扱いとメンテナンスに関する重要な項目が記載されていることを示します。



のどに詰まりやすい小さな部品が含まれています。3歳未満のお子様には適していません。



この製品には磁性材料が含まれています。体内に埋め込まれている医療機器への影響については、医師にご相談ください。



標高2000mを超える高地での使用には適していません。

- 許可なく製品を改造しないでください。
- 車内や船上などで使用しないでください。

- 使用中は、製品を壁のくぼみや締め切ったキャビネットなどの中に置かないでください。
- 暖炉、ラジエーター、暖房送風口、その他の熱を発生する装置（アンブを含む）の近くにブラケットを取り付けたり、製品を設置したりしないでください。
- 火気や熱源などの近くで使用しないでください。火の付いたろうそくなどの火気を製品の上や近くに置かないでください。
- 火災や感電を避けるため、雨の当たる場所や液体のある場所、湿度の高い場所で製品を使用しないでください。
- 水漏れやしぶきがかかるような場所でこの製品を使用しないでください。また、花瓶など、液体が入った物品を製品の上や近くに置かないでください。
- インバータ電源は使用しないでください。
- プラグを主電源コンセントに接続する前にアース接続を行うか、コンセントに保護アース接続が組み込まれていることを確認してください。
- 万が一の事故や故障に備えるために、よく見えて手が届く位置にあるコンセントに電源プラグを接続してください。

規制に関する情報

本製品は、エネルギー関連製品のエコデザイン要件に関する指令2009/125/ECおよびエネルギー関連製品およびエネルギー情報のエコデザイン(改正)(EU離脱)規則2020に基づき、以下の規範または文書に準拠しています。Regulation (EC) No. 1275/2008、改正版 Regulation (EU) No. 801/2013

Required Power State Information	Power Modes	
	Standby	Networked Standby
Power consumption in specified power mode, at 230V/50Hz input	≤ 0.5 W	N/A*
Time after which equipment is automatically switched into mode	4 hours	N/A*
Power consumption in networked standby if all wired network ports are connected and all wireless network ports are activated, at 230V/50Hz input	N/A*	
Network port deactivation/activation procedures. Deactivating all networks will enable standby mode.	*Product does not utilize a networked standby mode for a Bluetooth® connection and does not have the ability to be configured to a network via Wi-Fi® or Ethernet	

	L1 Pro8	L1 Pro16
Dimensions (H × W × D)	200 × 31.7 × 45.6 cm (78.7 × 12.5 × 17.9 in)	201.1 × 35.5 × 45.6 cm (79.2 × 14.0 × 18.0 in)
Net Weight	17.4 kg (38.2 lb)	23.0 kg (50.6 lb)
Input Rating	100-240 VAC, 1A, 50/60 Hz	100-240 VAC, 3A, 50/60 Hz
Initial turn on inrush current	15.8 A at 120 V; 30.1 A at 230 V	15.7 A at 120 V; 28.4 A at 230 V
Inrush current after AC mains interruption of 5 s	1.2 A at 120 V; 19.4 A at 230 V	2.4 A at 120 V; 8.1 A at 230 V

This equipment should be installed and operated with a minimum distance of 20 cm between radiator and your body.

The product label is located on the bottom of the product.

Model: 431389L8 / 431389L16. The CMIIT ID is located on the bottom of the product.

CAN ICES-3(B)/NMB-3(B)

Information About Products That Generate Electrical Noise (FCC Compliance Notice for US)

NOTE: This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates,

uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

Changes or modifications not expressly approved by Bose Corporation could void the user's authority to operate this equipment.

This device complies with part 15 of the FCC Rules and with ISED Canada's license-exempt RSS standard(s). Operation is subject to the following two conditions: (1) This device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

For Europe:

Frequency band of operation 2400 to 2483.5 MHz.

Maximum transmit power less than 20 dBm EIRP.

Maximum transmit power is below regulatory limits such that SAR testing is not necessary and exempt per applicable regulations.



This symbol means the product must not be discarded as household waste, and should be delivered to an appropriate collection facility for recycling. Proper disposal and recycling helps protect natural resources, human health, and the environment. For more information on disposal and recycling of this product, contact your local municipality, disposal service, or the shop where you bought this product.

Management Regulation for Low-power Radio-frequency Devices

Article XII

According to "Management Regulation for Low-power Radio-frequency Devices", without permission by the NCC, any company, enterprise, or user is not allowed to change frequency, enhance transmitting power, or alter original characteristics, as well as performance, to an approved low power radio-frequency device.

Article XIV

The low power radio-frequency devices shall not influence aircraft security and interfere with legal communications; If found, the user shall cease operating immediately until no interference is achieved. The said legal communications means radio communications in compliance with the Telecommunications Act.

The low power radio-frequency devices must be susceptible with the interference from legal communications or ISM radio wave radiated devices.

有害／危険物質または成分の名称および含有に関する情報						
有害／危険物質および成分						
各部の名称	鉛 (Pb)	水銀 (Hg)	カドミウム (Cd)	六価クロム (Cr (VI))	ポリ臭化ビフェニル (PBB)	ポリ臭化ジフェニルエーテル (PBDE)
基板	X	0	0	0	0	0
金属部分	X	0	0	0	0	0
プラスチック部分	0	0	0	0	0	0
スピーカー	X	0	0	0	0	0
ケーブル	X	0	0	0	0	0
この表は、SJ/T 11364の規格に沿うように作成されています。 0: 該当部分のすべての素材に含まれる有害／危険物質が GB/T 26572の制限要件を下回っていることを示します。 X: このパーツに使用されている1種類以上の均質物質に含まれている当該有害／有害物質が、GB/T 26572の制限要件を上回っていることを示します。						

機器名: L1 Pro8/L1 Pro16 形式: 431389L8 / 431389L16						
制限される物質および化学記号						
ユニット	鉛 (Pb)	水銀 (Hg)	カドミウム (Cd)	六価クロム (Cr+6)	ポリ臭化ビフェニル (PBB)	ポリ臭化ジフェニルエーテル (PBDE)
基板	-	○	○	○	○	○
金属部分	-	○	○	○	○	○
プラスチック部分	○	○	○	○	○	○
スピーカー	-	○	○	○	○	○
ケーブル	-	○	○	○	○	○
注1: 「○」は制限物質の含有率が存在の基準値の比率を超過していないことを示します。 注2: 「-」は制限物質が除外の対象であることを示します。						



製造日: シリアル番号の8桁目の数字は製造年を表します。「0」は2010年または2020年です。

輸入元: Bose Electronics (Shanghai) Company Limited, Level 6, Tower D, No. 2337 Gudai Rd. Minhang District, Shanghai 201100 | Bose Products B.V., Gorslaan 60, 1441 RG Purmerend, The Netherlands | Bose de México S. de R.L. de C.V., Avenida Prado Sur #150, Piso 2, Interior 222 y 223, Colonia Lomas de Chapultepec V Sección, Miguel Hidalgo, Ciudad de México, C.P. 11000
電話番号: +5255 (5202) 3545 | Bose Limited (H.K.), 9F., No. 10, Sec.3, Minsheng E. Road, Zhongshan Dist. Taipei City 10480, 電話番号: +886-2-2514 7676 | Bose Limited, Bose House, Quayside Chatham Maritime, Chatham, Kent, ME4 4QZ, United Kingdom

Bose Corporation Headquarters: 1-877-230-5639

AppleおよびAppleのロゴは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。App StoreはApple Inc.のサービスマークです。

Bluetooth®のワードマークとロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、Bose Corporationはこの商標を使用する許可を受けています。

Google PlayはGoogle LLCの商標です。

Wi-Fiは、Wi-Fi Alliance®の登録商標です。

Bose、Bのロゴ、L1、およびToneMatchは、Bose Corporationの商標です。

その他すべての商標は所有権を保持する各社に帰属します。

Boseのプライバシーポリシーは次のサイトをご参照ください:

worldwide.bose.com/privacypolicy

製品保証の詳細はworldwide.bose.com/Warrantyをご覧ください。

©2024 Bose Corporation.本書のいかなる部分も、書面による事前の許可のない複製、変更、配布、その他の使用は許可されません。

控えとして、製品の情報を以下の欄にご記入ください。

シリアル番号とモデル番号は、製品の底面にある製品ラベルに記載されています。

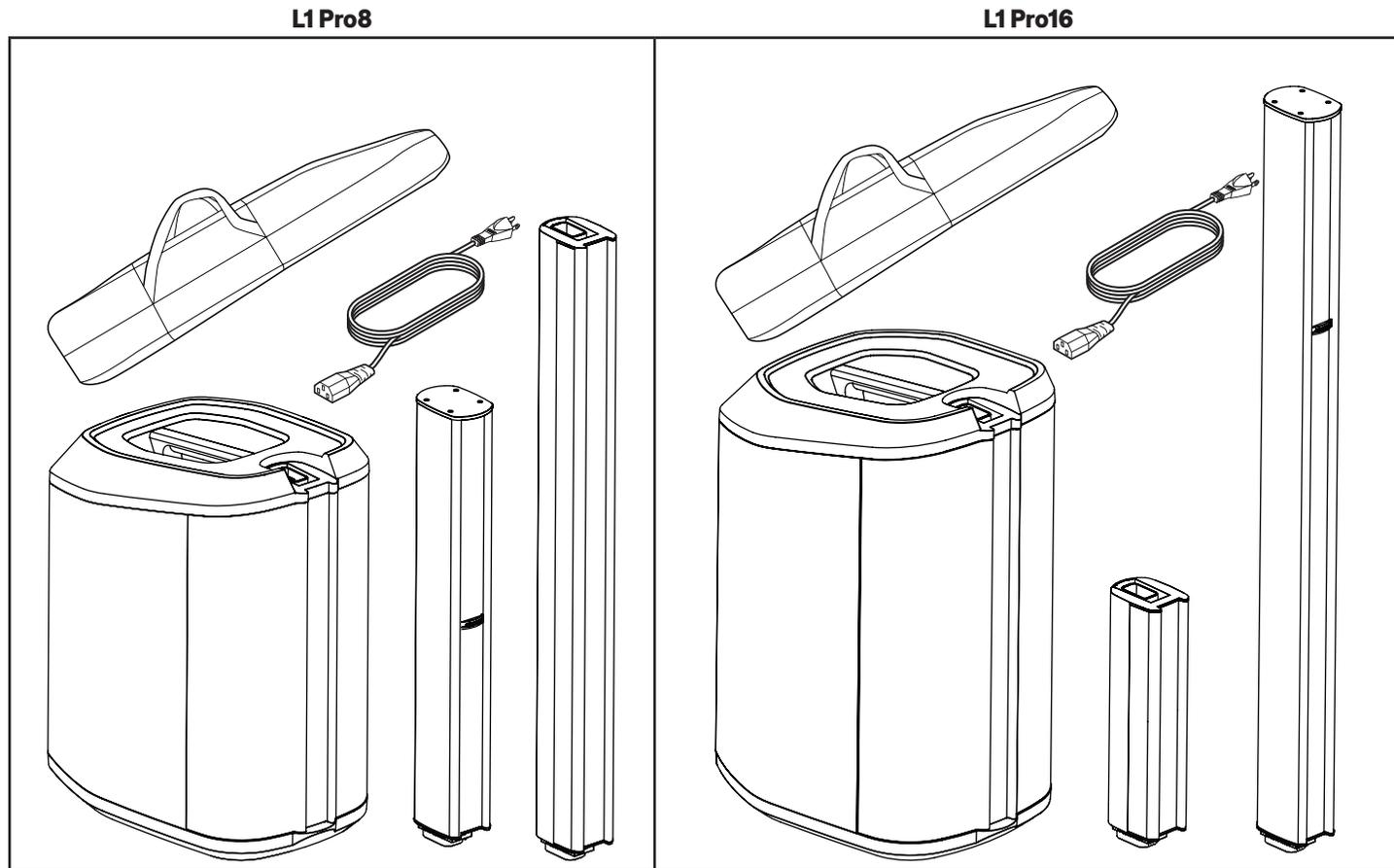
シリアル番号: _____

モデル番号: _____

概要	5
同梱物.....	5
オプションのアクセサリ	5
システムセットアップ	6
接続とコントロール.....	6
システムの組み立て.....	7
電源の接続.....	8
自動オフ/省電力スタンバイ.....	8
音源の接続.....	8
チャンネル1および2コントロール.....	8
チャンネル3コントロール.....	9
Bose アプリの操作.....	9
その他の調整.....	10
チャンネルミュート.....	10
ファンタム電源.....	10
システムEQ.....	10
システムセットアップのパターン.....	11
ソロミュージシャン.....	11
モバイル機器を使用するミュージシャン.....	12
バンド.....	12
T8Sミキサーを使用するミュージシャン.....	13
ミュージシャン (T4Sミキサーをステレオで使用).....	13
DJ (ステレオ).....	14
Sub1を使用するDJ.....	14
ミュージシャン (デュアルモノ).....	15
S1 Proをモニターとして使用するミュージシャン.....	15
お手入れについて	16
L1 Proのお手入れについて.....	16
トラブルシューティング.....	16

概要

同梱物



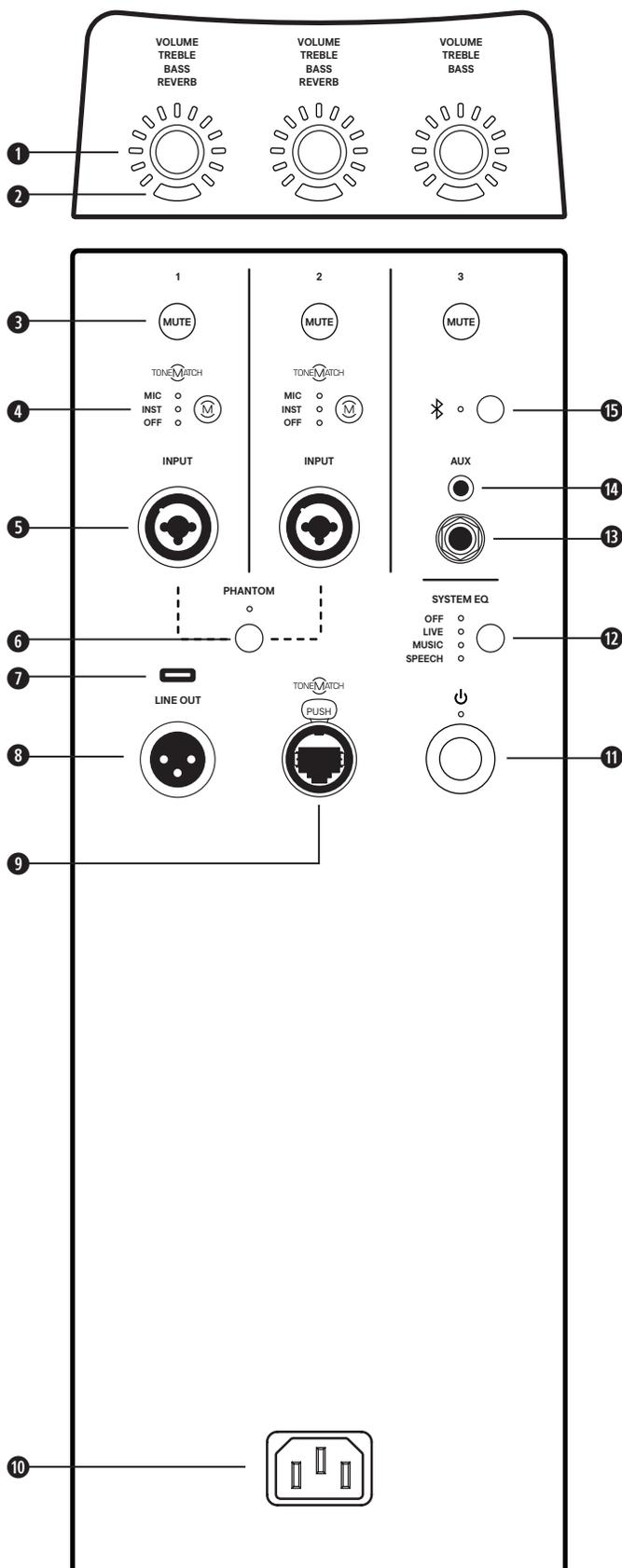
オプションのアクセサリ

- ・ L1 Pro8システムバッグ
- ・ L1 Pro16システムローラーバッグ
- ・ L1 Pro8/Pro16スリップカバー

L1 Proのアクセサリについての詳細は、GLOBAL.BOSE.COMをご覧ください。

システムセットアップ

接続とコントロール



- ① **チャンネルパラメーターコントロール:** 任意のチャンネルの音量、高音、低音、リバーブを調整します。コントロールを押すとパラメーターを切り替えられ、回すと選択したパラメーターのレベルを調整できます。
- ② **シグナル／クリッピングジケーター:** 信号を受けている場合はLEDが緑に点灯し、信号がクリップしたり、リミッターが適用されると赤く点灯します。チャンネルまたは信号の音量を下げることで、信号のクリッピングやリミッターの適用を防ぐことができます。
- ③ **チャンネルミュート:** 個別のチャンネルの出力をミュートします。ボタンを押すとチャンネルをミュートできます。ミュート中はボタンが白く点灯します。
- ④ **チャンネルToneMatchボタン:** 個別のチャンネルのToneMatchプリセットを選択します。マイクには「**MIC**」を使用し、アコースティックギターには「**INST**」を使用します。選択中は対応するLEDが白く点灯します。
- ⑤ **チャンネル入力:** マイク (XLR)、楽器 (TS、アンバランス)、またはラインレベル (TRS、バランス) のケーブルを接続するアナログ入力です。
- ⑥ **ファンタム電源:** ボタンを押すと、チャンネル1と2に48V電源が適用されます。ファンタム電源が適用されると、LEDが白く点灯します。
- ⑦ **USBポート:** ボーズのサービスで使用するUSB-Cコネクタです。
注: このポートはThunderbolt 3ケーブルには対応していません。
- ⑧ **XLRライン出力:** XLRケーブルを使用して、Sub1 / Sub2、またはその他のベースモジュールにラインレベル出力を接続します。
- ⑨ **ToneMatchポート:** ToneMatchケーブルを使用して、お使いのL1 ProをT4S / T8S ToneMatchミキサーに接続します。



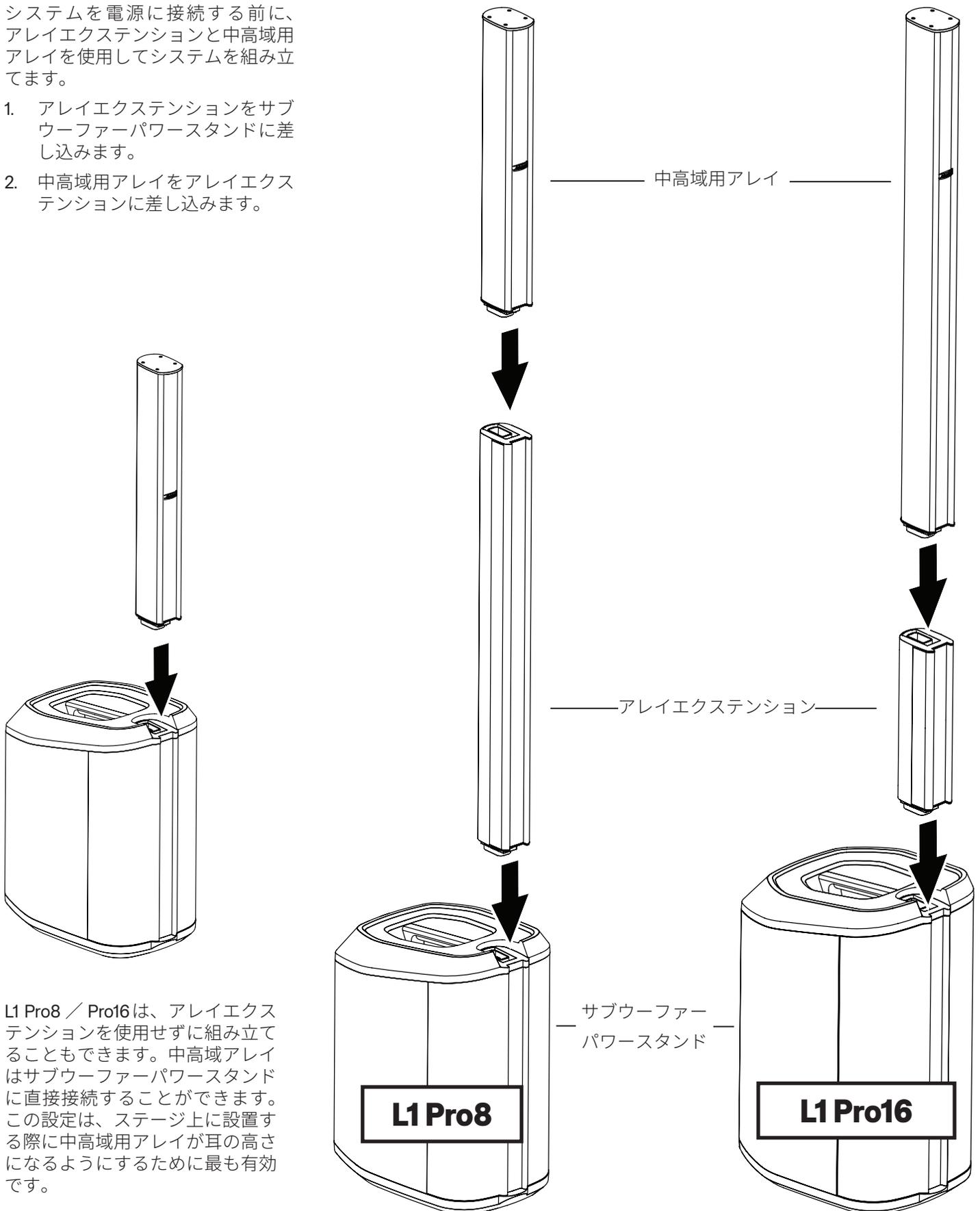
注意: コンピューターや電話回線には接続しないでください。

- ⑩ **電源入力:** IEC電源コードを接続します。
- ⑪ **スタンバイボタン:** ボタンを押して、L1 Proの電源をオンにします。システムがオンになっていると、LEDが白く点灯します。
- ⑫ **システムEQ:** ボタンを押して、用途に適したマスターEQをスクロールして選択できます。選択中は対応するLEDが白く点灯します。
- ⑬ **TRSライン入力:** 6.4 mm (1/4インチ) TRSケーブルを使用して、ラインレベルの音源を接続します。
- ⑭ **AUXライン入力:** 3.5 mm (1/8インチ) TRSケーブルを使用して、ラインレベルの音源を接続します。
- ⑮ **Bluetooth®ペアリングボタン:** Bluetooth対応機器とのペアリングをセットアップします。L1 Proが検出可能になるとLEDが青く点滅し、機器がペアリングされ、ストリーミング可能な状態になると白く点灯します。

システムの組み立て

システムを電源に接続する前に、アレイエクステンションと中高域用アレイを使用してシステムを組み立てます。

1. アレイエクステンションをサブウーファーパワースタンドに差し込みます。
2. 中高域用アレイをアレイエクステンションに差し込みます。



L1 Pro8 / Pro16は、アレイエクステンションを使用せずに組み立てることもできます。中高域アレイはサブウーファーパワースタンドに直接接続することができます。この設定は、ステージ上に設置する際に中高域用アレイが耳の高さになるようにするために最も有効です。

電源の接続

1. 電源コードをL1 Proの**電源入力**に差し込みます。
2. 電源コードのもう一方を、電源コンセントに差し込みます。

注: ソースを接続するまでは、システムの電源をオンにしないでください。以下の「**音源の接続**」を参照してください。

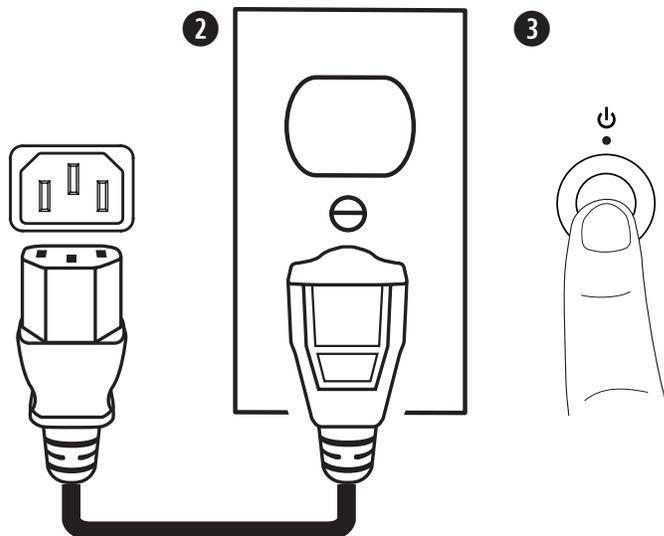
3. **スタンバイボタン**を押します。システムがオンになっていると、LEDが白く点灯します。

注: **スタンバイボタン**を10秒間長押しすると、システムを工場出荷時の状態にリセットできます。

自動オフ／省電力スタンバイ

4時間以上使用されない場合、電力を節約するため、L1 Proは自動オフ／省電力スタンバイモードになります。システムの自動オフ／省電力スタンバイモードを解除するには、**スタンバイボタン**を押します。

注: 3つの**チャンネルパラメーターコントロール**すべてを10秒間長押しするか、Boseアプリの「設定」ページから自動オフ／省電力スタンバイモードを解除できます。この手順を繰り返すことで、自動オフ／省電力スタンバイモードを有効化できます。自動オフ／省電力スタンバイモードを解除すると、L1 Proを使用していないときにも消費電力が多くなります。



音源の接続

チャンネル1および2コントロール

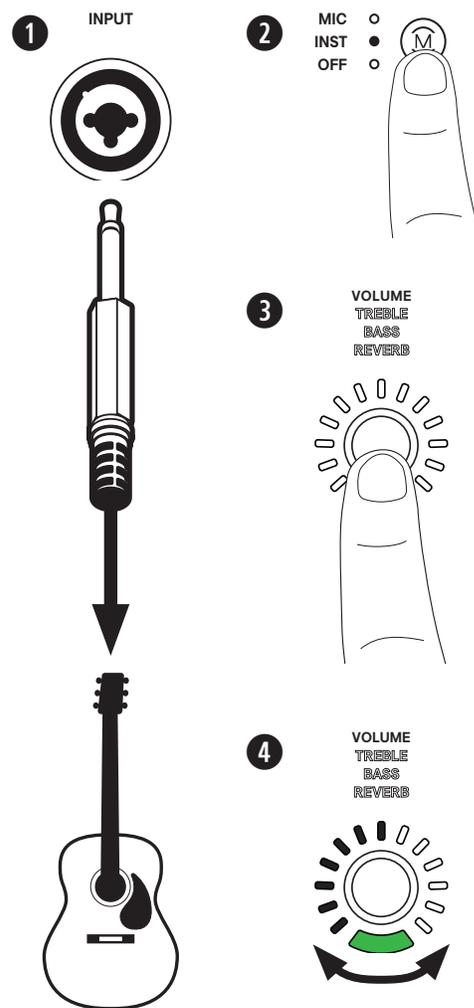
チャンネル1と2は、マイク、ギター、キーボードなどのあらゆる楽器で使用します。チャンネル入力は幅広い種類の入力に適しており、出力レベルに応じてチャンネルの音量を設定することで、適切なゲインステージ設定によりノイズを最小に抑えることができます。

1. 適切なケーブルを使用して、音源を**チャンネル入力**に接続します。
2. 選択したいプリセットのLEDが点灯するまで**チャンネル ToneMatch ボタン**を押すことで、ToneMatchプリセットを適用して、マイクや楽器のサウンドを最適化することができます。マイクには「**MIC**」を使用し、アコースティックギターなどの楽器には「**INST**」を使用します。プリセットを適用しない場合は、「**OFF**」を使用します。

注: ToneMatchライブラリからカスタムプリセットを選択するには、Boseアプリを使用します。カスタムプリセットを選択すると、対応するLEDが緑に点灯します。

3. **チャンネルパラメーターコントロール**を押すと、変更するパラメーターを選択できます。選択されると、パラメーター名が白く点灯します。
4. **チャンネルパラメーターコントロール**を回すと、選択したパラメーターのレベルを調整できます。パラメーターLEDが選択したパラメーターのレベルを示します。

注: 「**Reverb**」が選択されているときにコントロールを2秒間長押しすると、リバーブをミュートできます。リバーブがミュートされているときは、「**Reverb**」が白く点滅します。リバーブのミュートを解除するには、「**Reverb**」が選択されている状態でコントロールを2秒間長押しします。リバーブのミュートは、システムの電源がオフになるとリセットされます。



チャンネル3コントロール

チャンネル3は、*対応機器およびラインレベルオーディオ入力で使用します。

Bluetoothペアリング

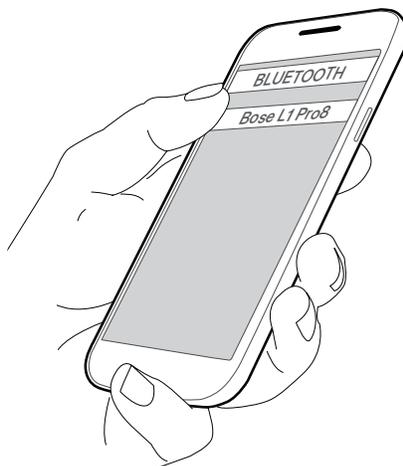
次のステップでは、対応機器を手動で接続してオーディオをストリーミングする方法を説明します。

Boseアプリを使用して、機器のその他のコントロール機能进行操作できます。Boseアプリの詳細については、下の「**Boseアプリの操作**」をご覧ください。

1. モバイル機器の機能をオンにします。
2. **Bluetoothペアリングボタン**を2秒間長押しします。ペアリングの準備ができたなら、LEDが青く点滅します。



3. お使いのL1 Proがモバイル機器のデバイスリストに表示されます。デバイスリストからL1 Proを選択します。機器のペアリングが完了したら、LEDが白く点灯します。



注:使用中にシステムから通知が聞こえる場合があります。これを防ぐには、接続した機器の通知機能を無効にします。機内モードを有効にすると、通話やメッセージの通知によるオーディオの中断を防ぐことができます。

TRSライン入力

モノラル入力です。6.4 mm (¼インチ) TRSケーブルを使用して、ミキサーや楽器用エフェクターなどのラインレベルの音源を接続します。

AUXライン入力

ステレオ入力です。3.5 mm (⅓インチ) TRSケーブルを使用して、モバイル機器やノートPCなどのラインレベルの音源を接続します。

Boseアプリの操作

デバイスの詳細なコントロールやオーディオストリーミング機能を利用するには、Boseアプリをダウンロードしてください。ダウンロードしたら、アプリの指示に従ってL1 Proを接続します。Boseアプリの具体的な使用方法については、アプリ内ヘルプをご覧ください。



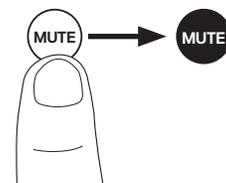
機能

- チャンネルの音量の調節
- チャンネルミキサーのパラメーターの調整
- システムEQの調整
- チャンネルミュートの有効化
- リバースミュートの有効化
- ファンタム電源の有効化
- ToneMatchプリセットライブラリへのアクセス
- シーンの保存

その他の調整

チャンネルミュート

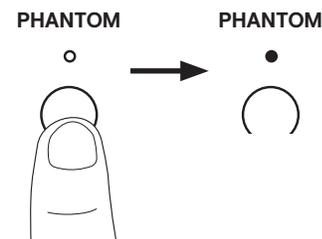
チャンネルミュートを押して、個別のチャンネルのオーディオをミュートできます。チャンネルがミュートされている間、ボタンが白く点灯します。ボタンをもう1回押すと、そのチャンネルのミュートが解除されます。



ファンタム電源

ファンタム電源ボタンを押すと、チャンネル1と2に48 V電源が適用されます。ファンタム電源が適用されると、LEDが白く点灯します。コンデンサーマイクの使用時には、ファンタム電源を適用してください。ボタンをもう1回押すと、ファンタム電源をオフにできます。

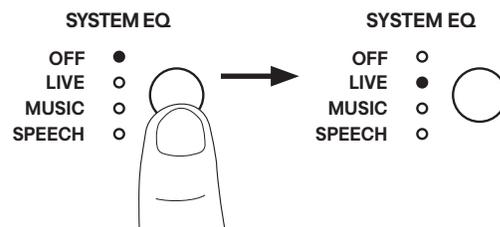
注: ファンタム電源は、XLRケーブルを使用して**チャンネル入力**に接続されたソースのみに適用されます。



システムEQ

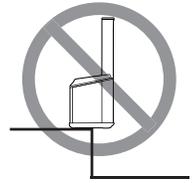
選択したいEQのLEDが白に点灯するまで**システムEQ**ボタンを押して、システムEQを選択できます。「OFF」、「LIVE」、「MUSIC」、および「SPEECH」のいずれかを選択できます。L1 Proの電源をオフにし、再度オンにしても、選択したEQが適用されたままになります。

注: システムEQは、サブウーファー／中高域用アレイのオーディオのみに作用します。**システムEQ**は、**XLRラインアウト**のオーディオには作用しません。



システムセットアップのパターン

L1 Pro8 / Pro16 システムは、フロアまたはステージに設置することができます。ステージでシステムを使用する場合は、アレイエクステンションを使用せずにシステムを組み立ててください（7ページの「システムの組み立て」を参照してください）。

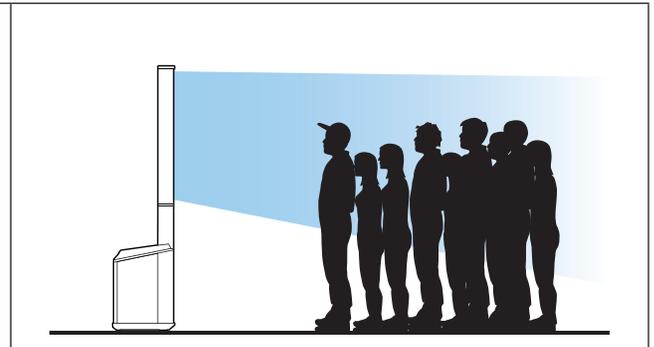
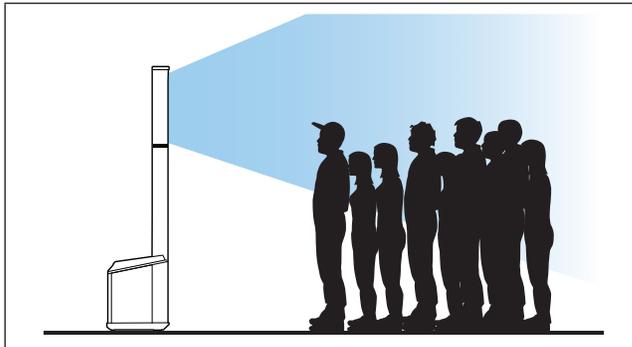


警告: 機器を不安定な場所に置かないでください。機器が安定した場所に配置されていないと、危険な状態につながり、けがの原因になることがあります。

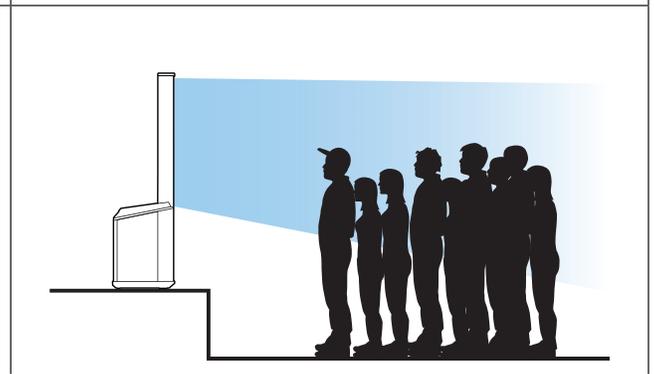
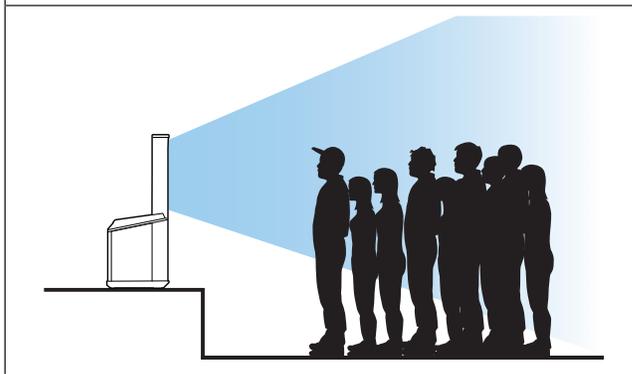
L1 Pro8

L1 Pro16

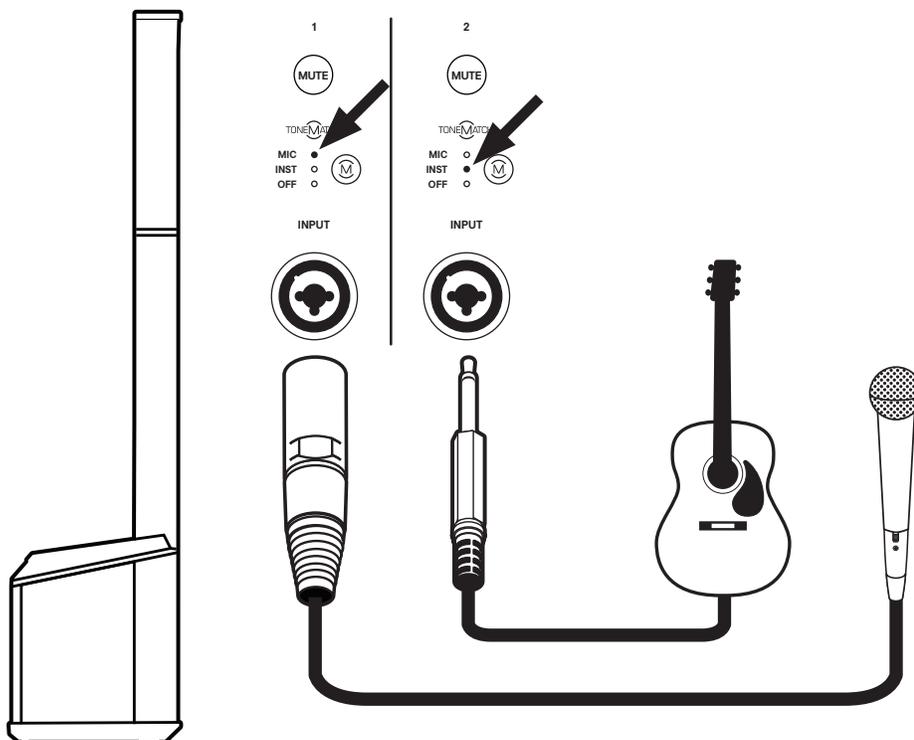
フロア



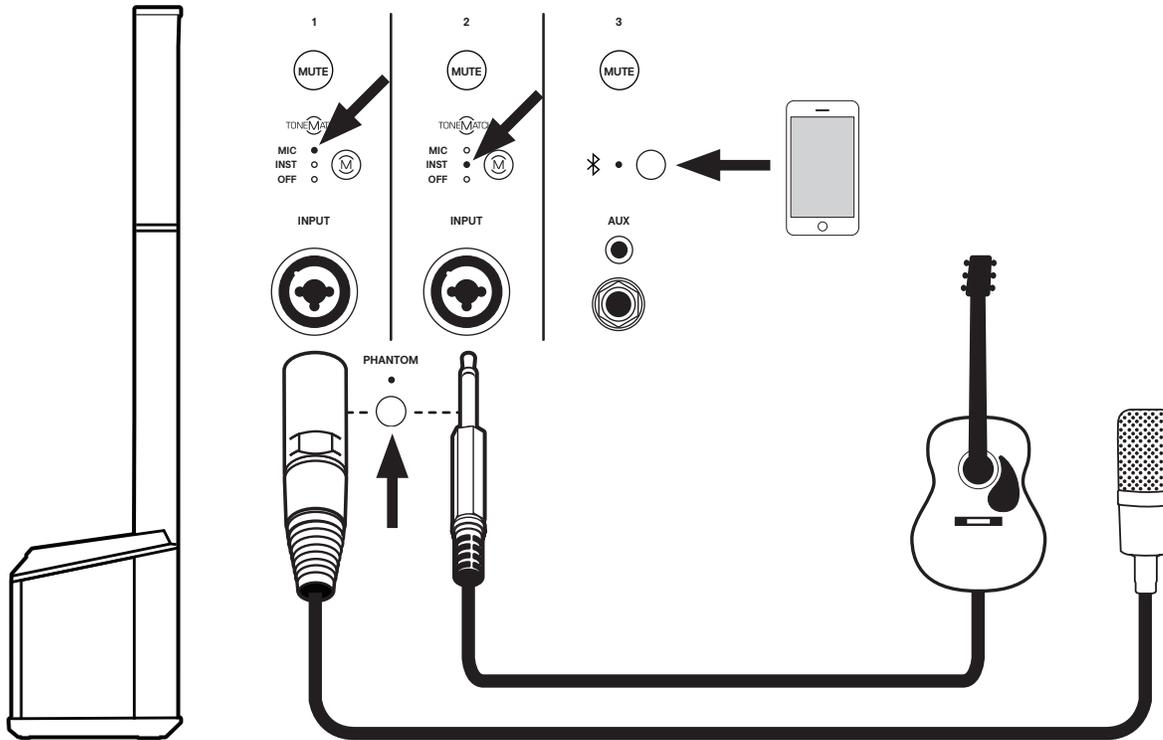
ステージ



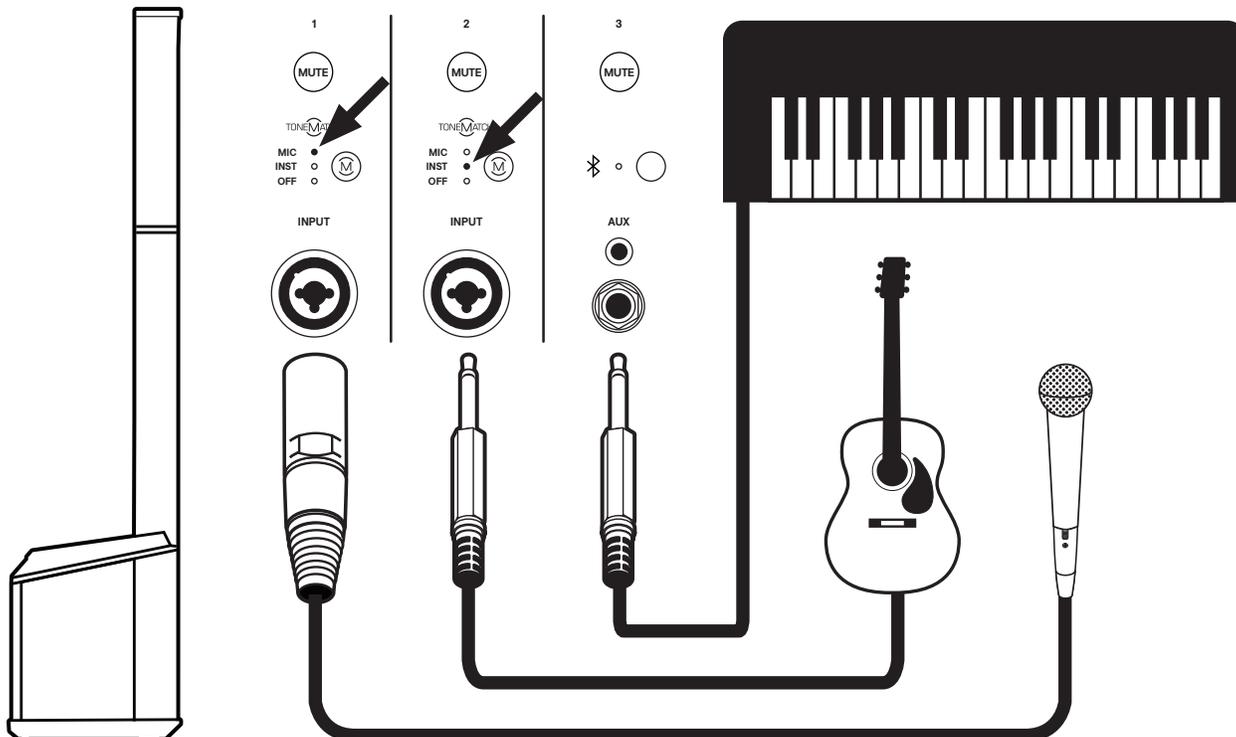
ソロミュージシャン



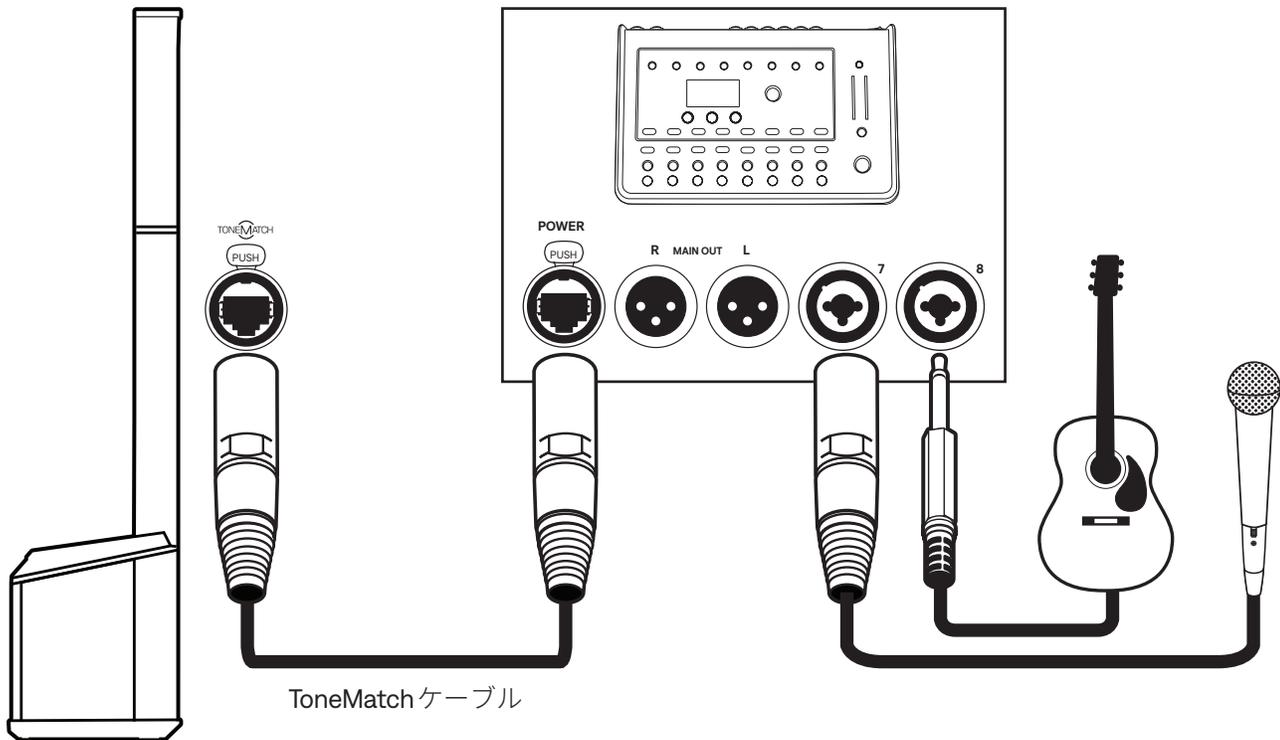
モバイル機器を使用するミュージシャン



バンド

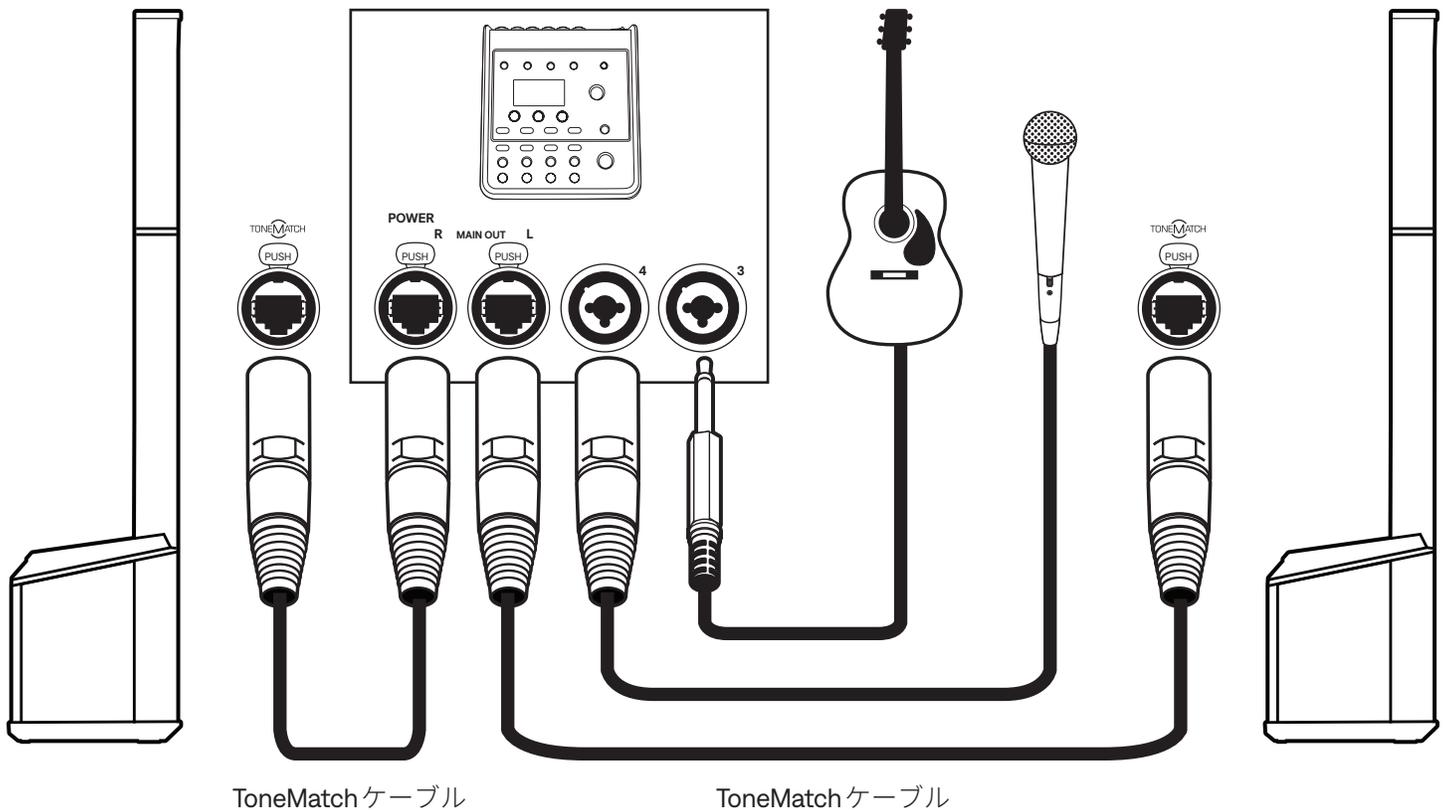


T8S ミキサーを使用するミュージシャン

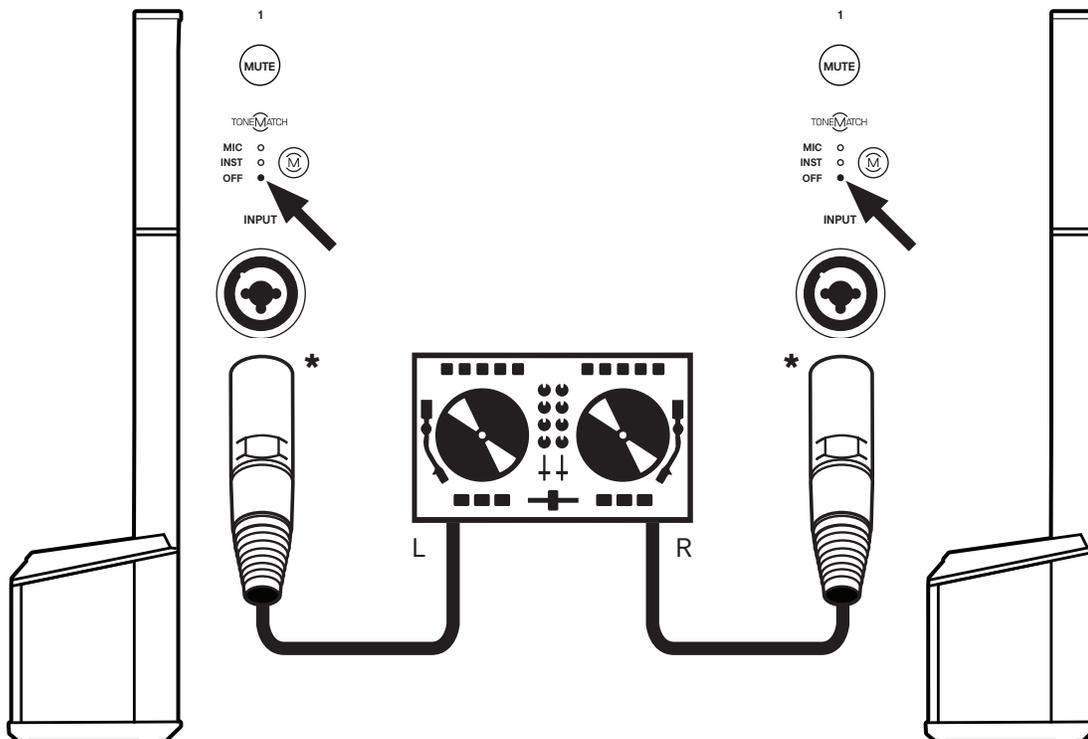


注: T8Sの左チャンネルのオーディオのみが出力されます。

ミュージシャン (T4S ミキサーをステレオで使用)

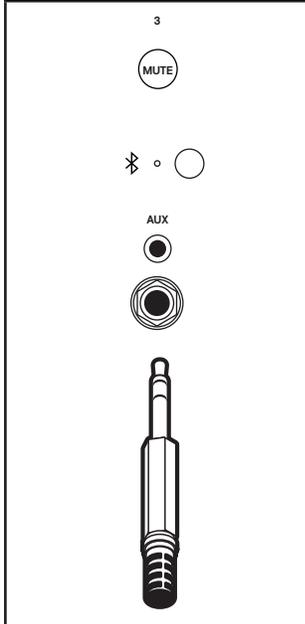


DJ (ステレオ)



***別の接続方法**

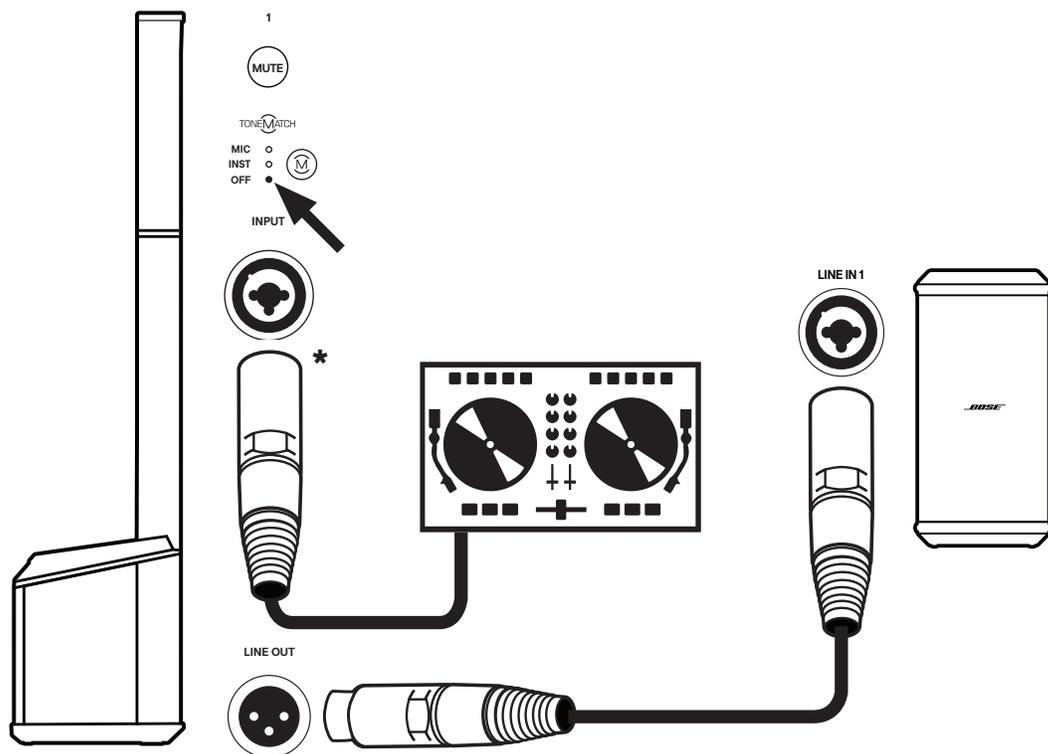
このシナリオには、専用のケーブルまたはアダプターが必要になる場合があります。TRSケーブルを**TRS ライン入力**に接続することで、より幅広い音量コントロールが可能になります。



Sub1を使用するDJ

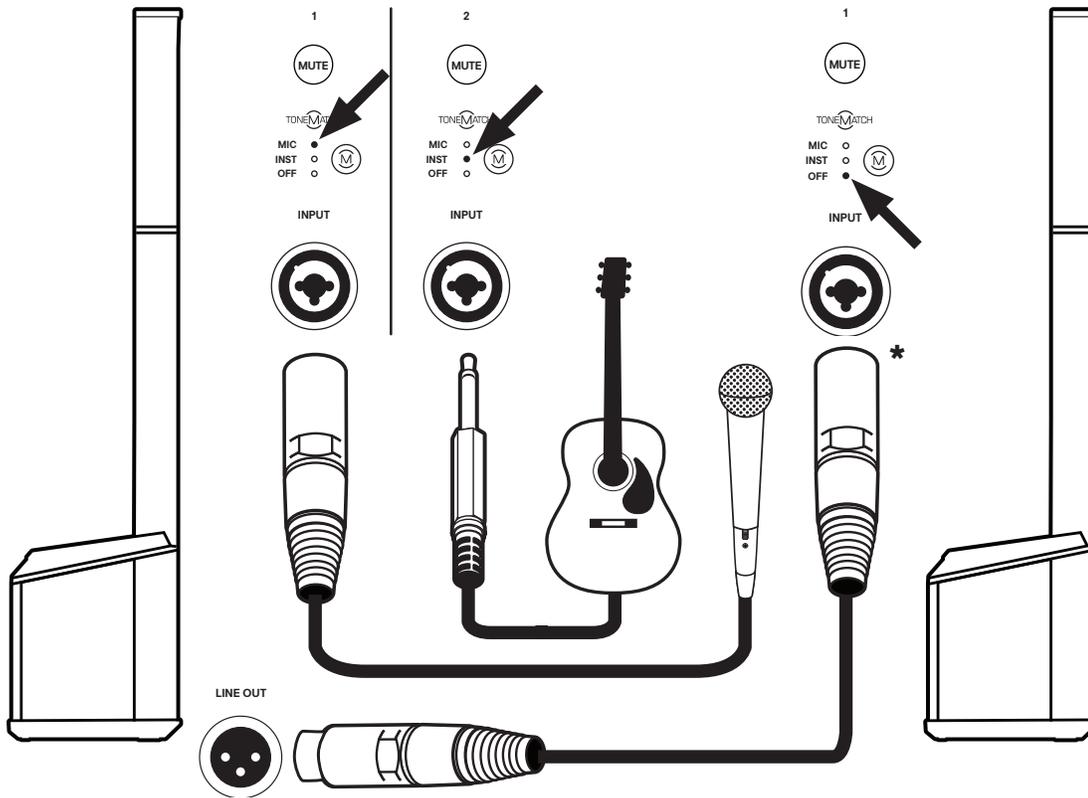
***別の接続方法**

このシナリオには、専用のケーブルまたはアダプターが必要になる場合があります。TRSケーブルを**TRS ライン入力**に接続することで、より幅広い音量コントロールが可能になります。



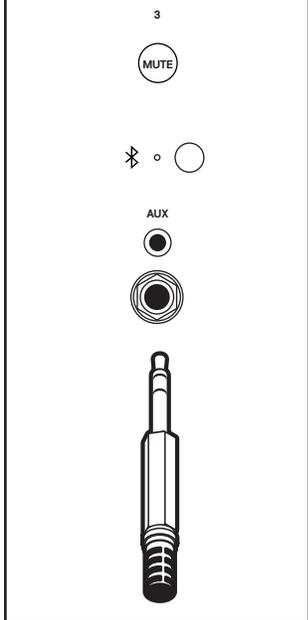
注: Sub1 / Sub2の適切な設定については、**GLOBAL.BOSE.COM**のSub1 / Sub2の取扱説明書をご覧ください。

ミュージシャン (デュアルモノ)

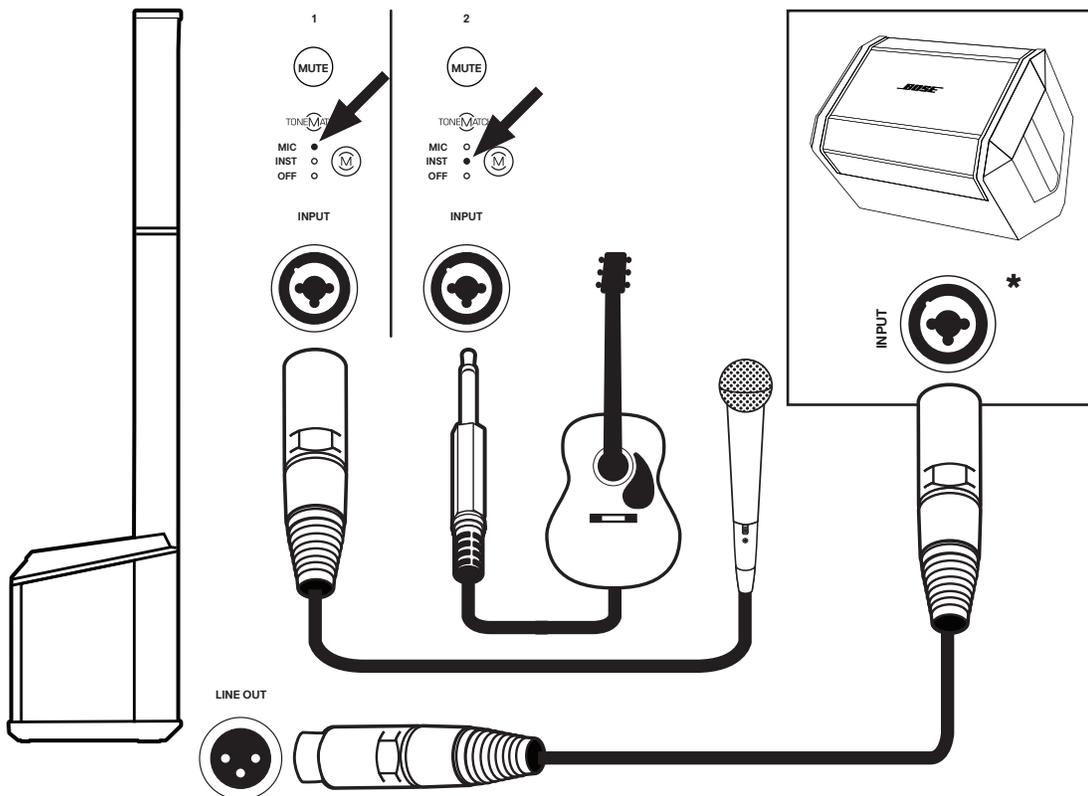


***別の接続方法**

このシナリオには、専用のケーブルまたはアダプターが必要になります。TRSケーブルを **TRS ライン入力** に接続することで、より幅広い音量コントロールが可能になります。

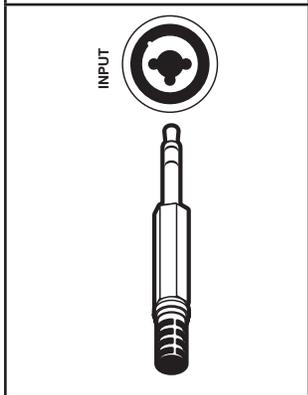


S1Proをモニターとして使用するミュージシャン



***別の接続方法**

このシナリオには、専用のケーブルまたはアダプターが必要になります。TRSケーブルを接続することで、より幅広い音量コントロールが可能になります。



お手入れについて

L1 Proのお手入れについて

必ず乾いた柔らかいクロス（布）を使用して、製品本体を拭いてください。必要な場合は、L1 Proのグリルを掃除機で掃除してください。

 **注意:** 溶剤、化学薬品、またはアルコール、アンモニア、研磨剤などを含むクリーニング液は使用しないでください。
注意: 製品の近くでスプレーを使用しないでください。また開口部に液体をこぼさないでください。

トラブルシューティング

問題	確認する項目
電源が入らない	<ul style="list-style-type: none"> お使いのACコンセントに電源がきているか確認します。ACコンセントに照明器具や他の機器を接続して動作するか試してください。ACコンセントテスターをお持ちの場合は、テスターを使ってコンセントの状態を確認してください。
音が出ない	<ul style="list-style-type: none"> L1 Proの電源が入っていることを確認してください。 楽器がチャンネル入力に接続されていることを確認してください。 お使いのソースの音量が上がっていることを確認してください。 L1 Proの音量が上がっていることを確認してください。 L1 Proが自動オフ/省電力スタンバイモードになっていないことを確認してください。 楽器を他のアンプに接続して、音源が動作していることを確認してください。 チャンネルミュートボタンがオンになっていないことを確認してください。
スタンバイLEDが赤く点滅している（温度異常）	<ul style="list-style-type: none"> L1 Proの電源をオフにし、30分待ってから再度電源をオンにしてください。 L1 Proをより涼しい場所に移動させてください。 L1 Proをより通気の良い場所に移動させてください。
スタンバイLEDが赤く点灯している（システム異常）	<ul style="list-style-type: none"> 製品およびサービスセンターまでお電話ください。
L1 Proに何も接続されていない状態で、小さな雑音やノイズが聞こえる	<ul style="list-style-type: none"> ACコンセントテスターを使用して、L1 Proが接続されているACコンセントの反転またはオープン（ホット、ニュートラル、またはグラウンド）コンタクトをテストしてください。 延長コードを使用している場合は、L1 Proをコンセントに直接差し込んでみてください。
楽器またはオーディオソースの音が歪む	<ul style="list-style-type: none"> ソースの音量を下げてください。 チャンネルの音量を下げてください。 異なるソースまたは楽器で試してみてください。
マイクがフィードバックを起こす	<ul style="list-style-type: none"> チャンネルの音量を下げてください。 マイクの向きを、直接L1 Proの方に向かないように変えてください。 別のマイクで試してみます。 ステージ上のL1 Proの位置や、ボーカリストの立ち位置を変えてみてください。 L1 Proとマイクの距離を離してください。 ボーカルのエフェクトプロセッサを使用している場合は、それがフィードバックの問題に関係していないか、確認してください。

問題	確認する項目
<p>ペアリングされた Bluetooth® 機器がスピーカーに接続されない</p>	<ul style="list-style-type: none"> • パスコードが必要な機器とペアリングしている場合は、正しい値を入力しているか確認してください。 • ソース機器の Bluetooth® 機能が有効であることを確認してください。 • Bluetooth 機器までの距離が離れすぎている可能性があります。機器を L1 Pro に近づけてください。 • 可能な場合は、近くにある他の Bluetooth 機器をオフにするか、Bluetooth 機能を無効にします。 • ペアリングスピーカーの履歴を消去するか、Bluetooth ペアリングボタンを10秒間長押しして新しい機器とペアリングしてください。L1 Pro を Bluetooth 機器から削除します。Bluetooth 機器を L1 Pro と再度ペアリングします。 • スピーカーの電源を切ってから、もう一度オンにして、再度機器をペアリングしてください。
<p>複数のユニットをデイジーチェーン接続するとひどいハムノイズが発生する</p>	<ul style="list-style-type: none"> • デイジーチェーン接続された機器の音量が高すぎる設定になっていないことを確認してください。



857135-0020

©2024 Bose Corporation. All rights reserved.
Framingham, MA 01701-9168 USA
GLOBAL.BOSE.COM
AM857135 Rev. 04
2024年2月

